



となりのママは外国人！？

脚本・絵 ピナツト

1

ある日、買い物に出かけた鈴木さん、道ばたに何かが落ちているのに気がつきました。

「あら、赤ちゃんの靴下だわ」

目の前のアパートのベランダに、ベビー服が干してあります。鈴木さんは、届けることにしました。

ピンポン！

—半分まで抜く—

おそるおそるドアを開けたのは、黒目がちで彫りの深い外国人のマリアさんでした。

「あのー、えーと、ハロー？」  
あ～～～…」

とつさに言葉が出ない鈴木さんに、「アツ、クツシタ！アリガトウ」とマリアさんは答えました。

この人は日本語が通じる、と安心した鈴木さんは、

一 拔く 一

演出ノート

言葉につまつて

鈴木さん‥六〇代の日本人女性。世話好きで話し好きの早口おばさん。  
マリアさん‥来日して日の浅い一〇代のフ

李さん り  
イリビン人女性。日本語はたゞたゞしい。ケンくんのママ。  
い。四〇代の中国人女性。来日して二〇年。日本語の日常会話は困らない。

コウちゃん..活発な五歳児。  
恵理さん..三〇代の日本人女性。看護師。

田中さん‥四〇代の日本人男性。マリアさんの夫。気さくなタクシー運転手。  
コウちやんの母。思いやりがあり、テキハキした性格。



②

鈴木さん

「あらっ！ かわいいわねえ。いないないばあつ。  
うちの孫と同じくらいじやない。  
三か月検診はもう済んだの？  
予防接種はした？」

いつものように話し始めました。

早口で

マリアさん

「エツ、ヨボー？」

アノ、チョット、ワカリマセン……」

鈴木さん

「えつ！ わからないって？」

マリアさん

「アノ……ダイジョブ。アリガトウ」

マリアさんは苦笑いし、ドアを閉めてしましました。

驚いて

困つて

— 抜く —



③

鈴木さん

「あらあら、あんなに急にドアを閉めるなんて」

(間)

「表札は『田中』だったから、  
ご主人は日本人のかしら」

独り言が続く

いぶかしむように

「でも、午前中からカーテンが閉めっぱなしで……。  
虐待なんてことはないだろうけど……。」

鈴木さんは、だんだん心配になつてきました。

— 抜く —



④

行きつけのクリーニング店に入ると、受付には顔なじみの李さんがいました。

鈴木さん

「李さん、あのね。  
さつき、赤ちゃんの靴下が落ちてたんで届けたら、  
ママが外国人だったのよ！」

『予防接種した?』って聞いたら

『わからない』って、

急にドア閉められちゃったのよ！』

早口で

早口で

李さん

「うーん……、鈴木さん早口だから、  
聞き取れなかつたんじやないの？」

李さんは、自分も「母子手帳」など、出産や育児の用語が難しく、苦労したことを話しました。

李さん

「ゆっくり、  
やさしい言葉で話したらいいんじやない？」

鈴木さんは「はっ」としました。

— 抜く —



⑤

買い物から帰宅した鈴木さんは、李さんの話したこと  
が頭から離れません。

鈴木さん

「失敗しちゃつたな……。  
あのママ、早口だからわからなかつたのか……」

(間)

上の子を育てた時の出来事も、まざまざと浮かんでき  
ました。

氣落ちして

しみじみと

鈴木さん

「大変だった……。

赤ちゃんの世話も何もかも、初めてのことばかり。

外国人なら、なおさらよね！」

「あのママも心細いのかも。

今度会つたら、『やさしい日本語』で  
ゆっくり話しかけてみよう

— 抜く —

数日後、近所のスーパーで、鈴木さんはマリアさん親子と偶然、再会しました。



⑥

鈴木さん  
「こんにちは」  
マリアさん  
「あ、こないだ……」

恐る恐る  
明るく

マリアさんはすぐに思い出して笑顔を見せます。

鈴木さん  
「あの、わたし、す・ず・き です」  
マリアさん  
「マリアです。このコ、ケンです」  
鈴木さん  
「ケンくん、おいくつ？」

マリアさん、黙ってしまいました。通じないようです。

鈴木さん  
「うーん……。ケンくん、なんさい？」  
マリアさん  
「ア！ 4カゲツね」  
鈴木さん  
「そう！ 大きいね～。マリアさん、ご出身は？」  
これも通じません。

そこで、「お国は？」と言い換えてみました。

マリアさん  
「オク？」  
鈴木さん  
「あのね、くに。く・に、ど・こ？」  
マリアさん  
「ア～！ ワタシ、フイリピン！」

鈴木さんは、「くに、ど～？」なんてちょっと失礼かとも思いました。でも、会話が続いて楽しい気持ちになりました。

— 抜く —

やさしく  
とても嬉しそうに

その日以来、二人は打ち解けはじめました。外で会つた時など、マリアさんは困りごとを鈴木さんに尋ねるようになりました。



⑦

マリアさん

「アノ……。アカちゃんのフクは、タカいですね。  
ヤスいフクは、ドコでかいですか？」

鈴木さん

「東松屋は、安い服が、たくさんありますよ。  
東松屋、知っていますか？」

たどたどしく、ゆっくり

通じていないうです。

鈴木さん

「いちど、一緒に行きましょうか？」

マリアさん

「ハイ、おネガイします」

鈴木さん

「マリアさんは、明日は、いいですか？」

マリアさん

「ハイ、ダイジョウブ」

鈴木さん

「じゃあ、明日、十時に、

私が、マリアさんの家に、行きますね」

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

二人は、すっかり「やさしい日本語」での会話に慣れ  
てきたようです。

— 抜く —



⑧

ある日、鈴木さんが買い物に向かう途中、暗い顔をしたマリアさんが向こうから歩いてきました。

鈴木さん

「どうしたの？」

マリアさん

「パパは、ヨル、タクシーのシゴトでしょ。  
だから、パパ、イマ、ネたいね。  
アカちゃん、ナク。  
だから、ワタシとアカちゃん、いつも サンボね」

驚き、心配そうに  
たどたどしく、ゆっくり

公園のベンチに腰掛けると、

— 抜きながら —

マリアさんは堰<sup>せき</sup>を切ったように泣き出してしまいました。



⑨

マリアさん

「アカちゃん、ずーっとナクでしよう?  
ワタシ、ヨルネる、できない。  
ワタシ、ヒトリでしょ?」

ダレ、テツダイ、いないでしょ?

フィリピンはチガうよ。

ワタシのオカアサン、オトウト、オバアチャン、  
イトコ、イトコのコドモたち、  
ミンナ、いるね」

鈴木さん

「そうよね……。  
マリアさん、疲れちやう。一人だもんね……」

—抜きながら—

と、そこへ

たどたどしく、ゆっくり



⑩

コウちゃん

「あつ！ 赤ちやんだ！」

一人の男の子が駆け寄ってきました。

恵理さん

「コウちゃん、

汚れた手で赤ちやんにさわったらダメよ」

恵理さんが追いかけてきて、二人に「すみません」と会釈します。

(間)

鈴木さんは、恵理さんと一言二言交わし、

鈴木さん

「そうだわ！ こちらのマリアさんを紹介するわ」

恵理さんは驚きます。

恵理さん

「ええっ！ 私、英語できないですよ……」

— 抜く —

元気よく

戸惑つて



⑪

鈴木さん

「恵理さん、大丈夫よ。  
マリアさんは、日本語、少しわかるよね」

(間)

鈴木さん

「マリアさん、こちらは、えりさんとコウちゃん。  
コウちゃんは、五歳です。  
えりさんはね、看護師さんです」

マリアさん

「カンゴシ?」

鈴木さん

「うーん、病院で、働く」

マリアさん

「アア、ナース?」

鈴木さん

「そう! ナース、『かんごし』ね」

恵理さんは、楽しそうな会話の様子を見て、「ああやつて話せば、日本語だけでも大丈夫なんだ」と思いました。

二人に呼びかけて

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

ゆっくり、はつきり

— 抜く —



⑫

その後、鈴木さんはマリアさんをクリーニング店に連れて行きました。

鈴木さん

「マリアさん、私の友だち、<sup>り</sup>李さんです。

李さんは中国人ですよ。  
上の子はもう十六歳だつけ？」

李さん

「そうですよ。」

このあいだ、高校受験、もう大変だつたよ。  
日本の受験、わからないし、  
学校の手紙、読めないし」

鈴木さん

「そうなの。李さんほど日本語が上手になつても、まだ苦労が多いのね！」

李さん

「そうよ！ ほんと、大変なよ！  
ねつ、マリアさん、お互い頑張ろうね！」

(間)

李さんが明るく話す姿を見て、マリアさんは気持ちが少し上向きました。

— ゆっくり抜く —

ゆっくり、はつきり

つぶやく

陽気に



⑬

それからしばらくしたある秋晴れの日、鈴木さんの家に、マリアさん家族がやってきました。

マリアさん

「キヨウ、ワタシ、タンジョウビです！  
これ、スズキさんに！」

なんと、ケーキを差し出しました。  
夫の田中さんも説明します。

田中さん

「妻がお世話になっています。  
フィリピンでは、誕生日の人が  
食べ物をふるまうらしいんですよ」

マリアさんも嬉しそうに続けます。

マリアさん

「いつも タスけてくれて、ありがとうございます。  
まえは、ニホンジン、ちょっと こわかった。  
スズキさんは、やさしいね。  
スズキさんのニホンゴ、ワタシ、わかる。  
うれしかった」

(聞)

とても嬉しそうに

はづんで

親しみをこめて

マリアさん  
「それにね、エリさんと、ときどき アソぶよ」

— 抜く —

嬉しくなった鈴木さんは、さっそくケーキを持ってクリーニング店へ行きました。

鈴木さん

「こんなちは！

マリアさんが、ご主人とケーキを持ってきてくれたの。

フイリピンでは、お誕生日の人気がみんなにふるまうんですって！」

李さん

「わあ！ ありがとう。中国と同じね」

鈴木さん

「あらつ！ 知らなかつたわ」

(間)

鈴木さんは、マリアさんが元気だった様子も伝えました。ゆっくり「やさしい日本語」で話すよう教えてもらつたことも、感謝しました。

李さんも、「自分が苦労した経験が、誰かの役に立つたら嬉しい」と温かい気持ちになりました。

(おしまい)



⑯

## ●紙芝居● となりのママは外国人！？

2018年10月25日 初版発行

2018年12月5日 第2版発行

脚本・絵 ピナット

発行 ピナット～外国人支援ともだちネット

〒181-0014

東京都三鷹市野崎3-22-16 すペーすはのこ2F

Tel:0422-34-5498 Fax:0422-32-9372

E-mail : pinattomitaka@gmail.com

URL : <http://pinatmitaka.wix.com/pinat>

facebookページ : <https://www.facebook.com/pinattomitaka>

©ピナット 2018